

# 日々はOracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

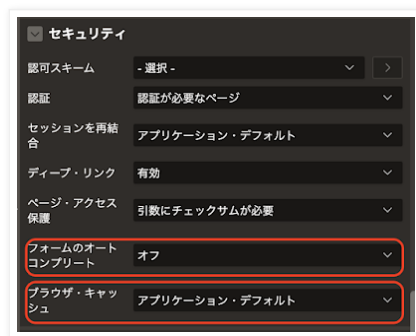
2020年7月3日 金曜日

## 特定のページへの直リンクによるアクセス(4) - 補足

いままでの記事で紹介しきれなかった機能を紹介しようと思います。

### フォームのオートコンプリートとブラウザ・キャッシュ

セキュリティにまともっているページのプロパティで紹介していないものとして、認可スキーム、フォームのオートコンプリートおよびブラウザ・キャッシュがあります。認可スキームはそれだけでひとつのテーマになる機能なので除くとして、フォームのオートコンプリートとブラウザ・キャッシュの指定によって何がかわるのか説明します。



#### フォームのオートコンプリート

このページで生成されるフォームに `autocomplete="off"` を追加します。以下のようなHTML生成されます。

```
<form action="www_flow.accept" method="post" name="www_flow" id="wwwFlowForm" data-oj-binding-provider="none" novalidate autocomplete="off">
```

日本語のオンライン・ヘルプにある「オン」の値はこのページには影響しません。というのは、オンの場合は生成されるHTMLに何も追加しない、という意味です。 `autocomplete="off"` がどのような効果を持つかは、厳密にはブラウザに依存します。デフォルトはオフになっています。

#### ブラウザ・キャッシュ

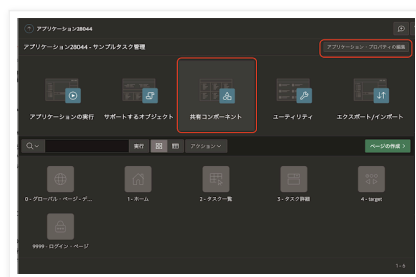
有効と無効の設定があり、無効にするとHTTPのレスポンス・ヘッダーに

Cache-Control: no-store

が挿入されます。クライアントのリクエストおよびサーバーのレスポンスを一切キャッシュしませんが、厳密にはブラウザ依存です。デフォルトはアプリケーション・デフォルトですが、これは通常、無効になっています。

#### アプリケーション・デフォルト

共有コンポーネントのアプリケーション定義属性、または、アプリケーションを開いたページのアプリケーション・プロパティの編集から開くページのセキュリティの項目に、各種プロパティのデフォルト値が設定されています。



共有コンポーネントからはアプリケーション・ロジックに含まれるアプリケーション定義属性を開きます。



今回の設定に関係するのは、セッション管理、セッション・ステート保護、ブラウザ・セキュリティです。

## セッション管理

セッションを再結合、ディープ・リンクのアプリケーション・デフォルトが設定されています。



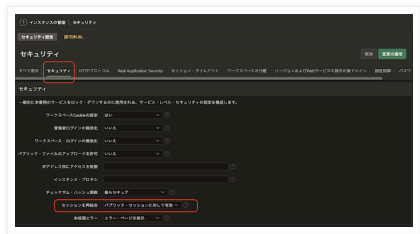
セッションの再結合については、インスタンス・レベルの設定があります。管理サービスにログインし、**インスタンスの管理**を実行します。



インスタンスの設定に含まれるセキュリティを開きます。



セキュリティにセッションを再結合の設定が含まれます。デフォルトでは**パブリック・セッションに対して有効**になっており、開発者がそれより緩い認証されたセッションを再結合を選んでも機能しないよう制限をしています。



ちなみにセッションの再結合の上に、**チェックサム・ハッシュ関数**の設定があります。デフォルトは**最もセキュア**になっています。



この設定によりデータベースに実装されているDBMS\_CRYPTOパッケージで使用可能な暗号化ハッシュ・アルゴリズムの種類から、**最もセキュア**なアルゴリズムを選んでいきます。使用可能なハッシュ・アルゴリズムはデータベースのバージョンで異なります。Oracle Database 11gではMD4, MD5, SHA-1が実装されている使用可能なアルゴリズムであるため、現在では強度が高いとはいえないSHA-1が選択されることになります。

セッション・ステート保護

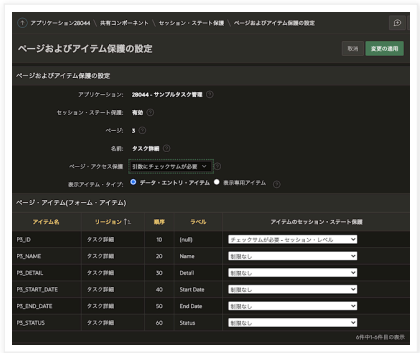
アプリケーション・レベルの**セッション・ステート保護**が設定されています。デフォルトは有効です。無効にすると、ページ・アクセス保護、または、アイテムのセッション・ステート保護の設定がどのようになっているいても、チェックサムによる保護が行われなくなります。一般的なアプリケーションで無効に設定することはないでしょう。



**セッション・ステート保護の管理**をクリックすると、共有コンポーネントの**セッション・ステート保護**が呼び出されます。



セッション・ステート保護はアプリケーションのセキュリティを確保する上で重要な機能なので、一括でレポートや構成をすることができます。例えば、以下のような画面でセッション・ステート保護の設定を行うことができます。



ブラウザ・セキュリティ

ブラウザ・キャッシュのアプリケーション・デフォルトは、**ブラウザ・セキュリティ**のキャッシュとして設定されています。デフォルトは無効です。



キャッシュの設定の下に、**フレームへの埋込み**があります。拒否、同じ起点から許可、許可の3つから選べます。これはX-Frame-Optionsヘッダーのdeny、sameorigin、ヘッダーの生成しない、に対応しています。

認証ファクションの影響

ページ・プロパティのヘルプに**認証スキームのページ監視ファクションの実装によって、この属性の効果が決まります。**との記載があります。



監視ファンクションとは、認証スキームに含まれる設定です。以前にこの機能について[記事](#)を書いています。

ユーザー定義の監視ファンクションを登録すると、その中でビューAPEX\_APPLICATION\_PAGESビューのPAGE\_REQUIRES\_AUTHENTICATION列を見て、認証をバイパスするといった処理を組み込まないと、この設定の効果は無くなる、ということをごく最近では説明しています。

監視ファンクションを自作するときには、気をつけてください。

完

Yuji N. 時刻: 17:49

共有

ホーム

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.